農業新聞

浅口市・金光学園高２年

柴田真喜人、淺野優斗
神原知弥、福嶋一郎

(1) 地域　　農業新聞　　2021年 11月17日

農業新聞
～岡山編～

取材
金光学園 うまいもん倶楽部
浅野 優斗、神原 知弥
柴田 真喜人、福嶋 一郎

農業から町の活性化へ
地元にある魅力的なモノ

10月31日(日曜日)、倉敷市玉島乙島にある平野工業跡で瓦まるしえが行われました。まるしえは、毎月最終日曜日の朝に開催されています。地域を盛りあげようというこのイベントにもコロナウイルスが立ちはだかり何度か中止になることもありました。9月のまるしえが中止になったため、一ヶ月ぶりの開催となった今回、とても盛り上がっていました。

瓦まるしえでの販売の様子(10月31日)

開催者の思い

新型コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止になり、地元の事業者や生産者の出店を創出しようという思いです。この思いを受け取った事業者や生産者の方々は自家製の野菜や果物、パンやお弁当などそれぞれが様々な商品を持ち寄り販売していました。プロジェクト委員会の平野さんは「地元の人と物が集まる交流の場になってほしいと話していました。

このような企画を続けていくことにより、地元のヒトとモノがつながるきっかけとなり、町全体が盛りあがると私たちは感じました。

農家さんの思い

体験のなかでスエ吉ファーマーズさんの野菜一つ一つに対し満足を感じました。メンバーされぞれが得意な野菜があり、そのことも生かしてみなの普段の野菜を育っていることがかりました。今後、農業を通じて地域を元気にしたい。という思いから来ていることも感じることができました。

浅口市特産紹介「トレビス」

トレビスは目持ちが良く、鮮やかな赤紫色でサラダなどの彩り野菜として用いる。キャベツとレタスの中間の食感と、ほろ苦さが特徴。浅口市のトレビスは、日本一の品質と高い評価を受けている。

畑で小芋を掘っている様子。大きな親芋についた小芋を取っている。

スエ吉ファーマーズ

スエ吉ファーマーズのイメージキャラクター スエ吉くん

「農業を通じて地域を元気にしたい」

まるしえで販売の手伝いをさせていただいたスエ吉ファーマーズさんの活動を始めたときからの変わらない思いです。2018年に設立してからの今年で4年目。今年から市の支援が無くなり団体の自立のため今まで以上に試行錯誤を繰り返しました。その中の一つとして私たちは農業体験をさせてもらいました。

新たな考えの芽生え

瓦まるしえでの販売の手伝いと農業体験を一緒にしたことで芽生えた農家の方への感謝です。今までありたり前のように食べてきた野菜。それを育て、収穫するまでの苦労を実際に少しではあるが体験することで、大切に育てた野菜をたくさんの人に食べてもらいたいという思いで一生懸命まるしえで販売することができました。

農業問題解決への糸口

日本の農業には沢山の問題があります。その中の一つである、食料自給率低下を改善していくには、地元でとれた新鮮な食べものを食べる(地産地消)ことで改善されていきます。そのために地元の食べものに興味を持ってもらえるようにすることが解決への第一歩となると思います。

農家さんのQ&A

Q. 農業のやりがいは?
A. 会社勤めとは違った暮らしを味わえることと、お客さんの笑顔

Q. 野菜を育てるなかで難しいことは?
A. 手入れのかかるものは、手間も時間の両方がいるため上手くいかないこと。

スエ吉ファーマーズは農業がかかえる様々な問題の解決を目指し、地域のシンボルとなる作物の品価(特産品)により、持続可能な農業を行い、高齢者福祉に還元する、つまり農業で地域を元気にするという目的を持って活動を行っています。今、5年となる今、もっとたくさんの野菜・果物をたくさんの人に食べてもらえるように頑張っていけるよう努力していきます。

きました。両方やってみないとわからないことを知り、地元の野菜をもっと大事にしようと思えるきっかけになりました。

(C)山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。